

# 八尾魅力発見!

## その⑨ 八尾の映画館

八尾ゆかりの映画といえ、八尾に住んだ直木賞作家の今東光原作「悪名」シリーズ、八尾高校出身で東宝作品のプロデュースを数多く手がけた田中友幸の作品「ゴジラ」、八尾の魅力大使である三池崇史監督作品など、数多くあります。

映画館も、市内には昭和7年ごろからあったといわれていますが、昭和30年には、八尾銀映、八尾映画劇場、日の出映画劇場、八尾松竹の4館が存在していたことが「映画便覧」(時事通信社発行「映画年鑑」1956年版別冊)に記載されています。

同書を経年で確認してみると、八尾の映画館の推移が分かります。昭和34年には八尾東映(八尾144、現在のファミリーロード内)、八尾日活(本町2・63、現在の慈願寺周辺)、若草映画劇場(駅前通北7・1、現在の慈願寺周辺)、日の出映画劇場(植松1125、現在の永畑小学校周辺)、八尾銀映(西郷町643、現在の八尾神社周辺)の5館になり、これに志紀東宝(大字弓削1



出典「目で見える八尾・柏原の100年」郷土出版社発行

63、現在の株式会社方志紀店周辺)を加えた6館時代が到来。昭和30年代半ばは映画娯楽が最大のピークを迎えた時代でもありました。(一)内は便覧掲載住所]

また、同書掲載の中で印象的なのは、市内のほとんどの映画館が邦画上映館であり、志紀東宝のみが洋画上映を行っていたということでした。

ところが、テレビの普及などにより映画館は急速にその姿を消していき、昭和42年には、八尾若草映画劇場(本町3、現在の慈願寺周辺)、八尾会館(本町5付近、現在のファミリーロード内)、志紀東宝の3館のみとなりました。

映画作品は現代まで残されていますが、映画館についての記録はほとんど残っていません。八尾にあった映画館の写真などの情報をお持ちの人は、魅力創造室までご一報ください。

☆問合せ先 魅力創造室

☎ 924・9375  
☎ 924・0180

八尾の  
魅力